

第21号

宇 障 連

福田富一栃木県知事揮毫

- ・発行責任者・
会長 麦倉仁巳
- ・編集・問合わせ先・
宇都宮市障害者福祉会連合会
☎320-0806
宇都宮市中央1-1-15
市総合福祉センター3F
- ・宇障連事務局・
TEL 637-7771
FAX 639-0663
- ・手話通訳専用・
TEL・FAX 636-1219
- ・印刷所・
藤崎印刷株式会社

同行援護事業所として事業指定を受けました

一昨年の、制度改正より、懸案だった、同行援護事業所としての事業指定が五月一日付で宇都宮市より認められました。これにより今後は、視覚障害の方は同行援護、肢体障害の方はこれまでの、移動支援としてのサービスになります。

これまでの間、新しい制度に対応した職員配置や、移行にかかる新しいシステム導入に関する予算の関係等で、移行時期が遅くなっていましたが、今年度でようやく見通しができたための実施となりました。

この制度は、視覚障害をもつ方を対象にした新しい制度で、日本盲人連合会などの当事者団体や関係者が障害者自立支援法における、「市町村地域生活支援事業」の中の移動支援とは異なる自立支援給付として要望があつて法律に規定されました。

これまででは、平成一八年一〇月の障害者自立支援法全面施行よりガイドヘルプサービスは、「地域生活支援事業」に位置づけられました。しかしながら、市町村によってその実

施体制、運営基準、従業者要件などが異なり、地域間での格差がありました。

同行援護の制度は居住地によるサービスの提供の格差をなくし、全国一律の基準でサービスが受けられることが、一番大きな成果と、言えるでしょう。

この制度での大きな変更は、サービスを受けられる対象者が、視野狭窄などの視野障害、夜盲を含めた視覚障害者に拡大されました。その、支給対象者の要件については、既存の障害区分認定は使用せず、視覚障害の状態に合わせた、新たなアセスメントが導入されました。

また、業務の内容について、代筆と代読を含む、情報提供が明確化されたことです。ただし、この代読や代筆は外出先に限られ、代読、代筆のみの依頼はできません。自宅でのこれらのサービスは、ホームヘルパーの対応になります。

同行援護の目的は、安全で快適に視覚障害者への「移動の支援」と「視

覚情報の提供」をするものとなっております。情報の提供は他の福祉サービスにはない、独自のものです。

このような、サービスの提供の為に宇障連のガイドヘルパーのみなさんも、日々、努力を重ねています。今後、サービスの質の向上を目指した研修も予定していきます。

宇都宮市保健福祉部長より
ご挨拶をいただきました

本年度の定期人事異動により、宇都宮市保健福祉部長に就任いたしました川中子でございます。

宇都宮市障害者福祉会連合会の皆様には、日ごろから本市福祉行政の推進にあたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。特に、「手話通訳者派遣事業」や「同行援護事業」などの障がい福祉サービスの提供においては、利用者へのニーズを的確に把握し、質の高いサービス提供に努めていただき、本市といたしましても、大変心強く感じているところであります。

さてこの四月からこれまでの「障害者自立支援法」に代わり「障害者総合支援法」が施行されました。この法律では、制度の谷間のないサービス提供を実現するため、障がい者の範囲に難病が追加されたほか、障がい福祉サービスの支給決定が、知的障がいや精神障がいの特性に応じ

て適切に行われるよう、これまでの「障害程度区分」が「障害支援区分」に改められるところであります。

障がいのある方を取り巻く環境が、大きな変革期を迎えるなか、本市といたしましては、国の動向を十分注視しながら、新たな制度に着実に対応できるよう準備していくことはもとより、障がいのある方が地域の中で人格と個性を尊重され、安心して充実した生活を送ることができるよう、質の高い障がい福祉サービスの提供や、市民の障がいへの理解促進に努めてまいりたいと思っております。

そのためには、障がいのある方と本市とのパイプ役である宇障連の皆様からのご支援・ご協力が不可欠です。

これまで本市と連携を図りながら取り組んでまいりました、市庁舎内の障がい者支援施設等製品販売所「わく・わくショップU」の運営や、障がいへの理解促進を図る「ノーマライゼーションカフェステイバル」の開催などに、引き続きご尽力いただくとともに、障がいのある方々が暮らしやすい地域社会づくりに向け、さらなるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、宇都宮市障害者福祉会連合会のごますますのご発展と、会員の皆様のご清祥をご祈念申し上げます。新任の挨拶とさせていただきます。

第58回日本身体障害者福祉大会

(北海道大会)

宇肢会 中村 富頼

今年の大会は五月二八日、札幌において開催されました。宇肢会からは十三名が参加し、四泊五日の日程によるバスの旅でした。

長距離の行程で障害のある皆さんには厳しい状況だったと思います。が、全員、本当に頑張っていた。体調を崩した人も無くお陰様で全員無事帰宅することができました。

障害者ではあっても、自立心をもって、チャレンジ精神を旺盛にして出掛けることによって、新しい発見と体験も出来、また、助け合いながらの行動によってお互いの絆も深まりました。

出発前から行こうか、どうしようか迷っていた人もありましたが勇気をだして行ってよかったとの声も聞かれました。皆さんには明日からの生活に自信が持てたことも、おおきな収穫となった大会であったことと思います。

視覚障害者福祉について思うこと

宇視協 小池上 惇

点字ブロックや音響式信号、エスコートゾーン、誘導チャイムなど視

覚障害者を支援するための設備が充実しました。視覚障害者の外出を支援するための「同行援護事業」など視覚障害者の福祉制度は充実してきています。

ところが、障害者への偏見はかなりの根強いものがあります。特に、「目が見えないと、なにもできない」と思っている人は少なくないようです。

これは、常に視覚に頼っている健全者にとってはやむをえないことなのかもしれません。音声案内つきの機器がたくさん開発されている現状にあつては、視覚障害者は意欲的にそれらの機器を利用して、携帯電話でメールを送受信し、パソコンで墨字の書類を作ったり、インターネット検索を行ったり、新聞を読んだりして大いにその恩恵に与っています。

むしろ、健全者よりも上手に、そして最大限にこれらの機器を利用している視覚障害者は少なくないと思います。けれども、どんなに視覚障害者のための機器が開発され、周辺の設備が整えられたとしても、最終的には「ヒトの目」が必要になります。

「視覚障害者にはこんなことはできない」ということではなく、「こういう仕事をするためにはこんな援助が必要だ」というように発想の転換ができれば、視覚障害者の活躍の場がもっと広がるのではないかと思います。視覚障害者が、障害を意識

せず、活躍できる時代が一日も早く訪れることを期待しています。

デフリンピックを知っていますか？

宇聴協 半田 江美

みなさんは、デフリンピックを知っていますか？

オリンピック、パラリンピックを聞いたことがありますよね。

国際的な障害者のスポーツの祭典は、パラリンピックだけではありません。スペシャルオリンピックス（知的障害者の国際競技大会）もデフリンピックもあります。

デフリンピックとは、四年に一度、世界規模で行われる聴覚障害者のための国際総合競技大会であり、国際ろう者スポーツ委員会が主催する障害者スポーツにおける最初の国際競技大会です。夏季大会、冬季大会があります。

今年のデフリンピック夏季大会の開催日は、七月二六日から八月四日、ブルガリアのソフィアで開催されます。

NHK「ろうを生きる・難聴を生きる」に情報提供するので、ぜひ、観てください。

全日本ろうあ連盟のホームページには「デフリンピック啓発サイト」の紹介もあります。ぜひ、デフリンピックを応援してください。

災害時に家族をまもるために

父母の会 山崎 富子

栃木県肢体不自由児・者父母の会では、年一回各地区持ち回りで、地区会長会議を行います。今年は日光市の担当で、緊急時・災害時における対策「あなたの家族をまもるために」をテーマに五月末に開催されました。

会議からは、自助、公助、共助の三つの観点で考えることを、学びました。

自助としては、震災等の災害が起きたときに、障がいをもつ我が子を守るために、日頃から家族との話し合いを行い、緊急時の対処法を考慮しておくことが、障がいをもつ子の親としては、一番重要で、コミュニケーションの取れない我が子の為、サポートファイルなどで情報の分かる資料の準備が必要だと感じました。公助としては、先の震災でも明らかになりましたが、障がい児・者は、避難所で一般の方と同じ場所では過ごす事が出来ない人も少なからずいます。また、周りの人に迷惑をかけるしまうこともあります。

安心して避難生活を送ることのできる、障がい児・者専用避難所の必要性を理解してもらえよう、行政に要望していきたいと思えます。共助は日頃から、地域の方に「我

が家には、障がいをもつ家族がいる」事を知ってもらい、緊急時に助けて頂ける体制をつくる。

今後、これをきっかけに宇障連として、加盟団体の意見を取りまとめ行政に働きかけて行く事が必要だと改めて感じた会議でした。

宇都宮喉友会について

喉友会 猪瀬 友夫

喉友会は、設立して十二年を迎えることが出来ました。これには「宇都宮市、県西部、県北部の地域の喉頭摘出者の人達から、既存の小山の教室は遠距離であったり、また、高齢のため通いたくても通えない」との声が後押しとなり設立いたしました。

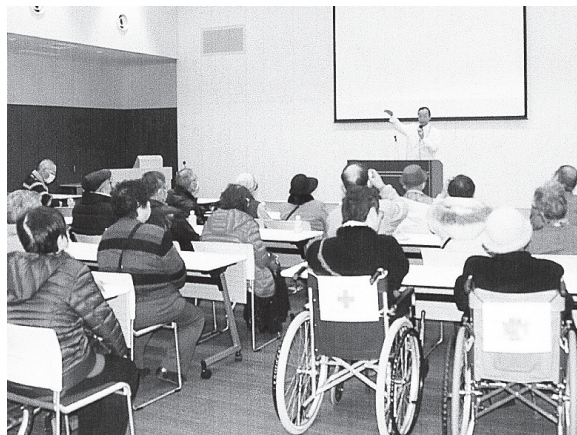
我々喉頭喪失者は、命と引き換えに喉頭を摘出し、食道と気管を完全に分離した生活をしています。手術を受けた直後は、身体的機能の変化に伴う気持ちの整理など、いろいろと戸惑いが有りました。それでも毎日の生活の中で色々な生活スタイルを体感しながら、心の回復も出来ました。喉友会の会員は現在二七名、主な事業は、第二の声を取り戻すため、宇都宮市総合福祉センターで毎週金曜日午後一時より二時三〇分まで食道発声訓練をしております。最近の傾向として、入会者の減少

や高齢者が多くなり、会員の減少等多々ありますが、発声訓練教室の充実、会員の福祉、交流の向上のため微力ながら努力して参りたいと思います。

宇障連会長はじめ、会員の皆様には今後とも宜しく願います。

那須赤十字病院で研修会開催

河内地区 田村 正男



北島院長のお話し

年二回実施している河内地区の研修事業は、一月に地域に密着した医療の推進に取り組んでいる「那須赤十字病院」において実施しました。

北島院長から、「地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院」「マイトウン・マイホスピタル」として

医療の充実に取り組んでいる活動状況をビデオと講話を通じて紹介されました。また、看護部長や職員の皆さんに、院内を案内していただき、参加者から「今からでもお世話になりたい」など、拡充された医療の設備をはじめ、医師や看護師の活躍に目を見張るばかりでした。

特に、緊急を要する「ヘリポート」の確保や職員の連携等は障害を持つ私たちの大きな力になってくれるものと期待いたしました。

なお、七月には北茨城市社協の協力をいただき、被災時における障害者支援活動の取り組み等の交流会を行います。

事務局からのお知らせ

○二四年度の寄付者

大塚俊男様
「宇障連を支える会」代表 横尾光夫様
「宇都宮友愛ライオンズクラブ」様

○会報の点訳、音訳の協力
点訳「かたつむり」「虹」の皆さん、音訳「アクセス」の皆さん
いつも、宇障連を支えていただきありがとうございます。

○新しい職員を迎えました

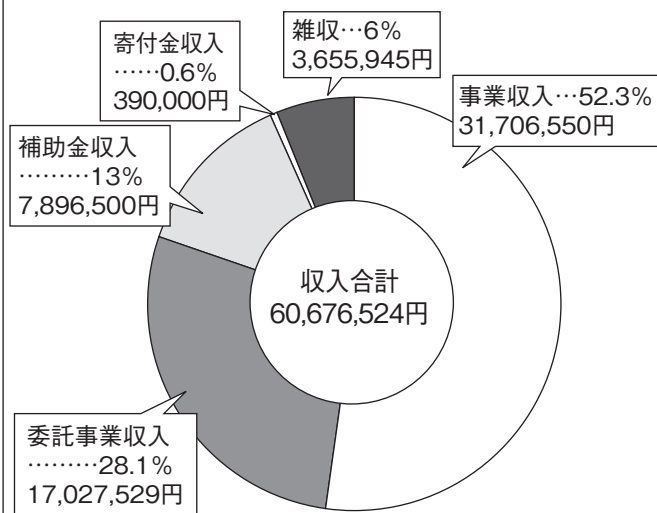
同行援護事業の開始に伴いサービス提供責任者を複数配置するため、一名増員となり、清水享子が着任しました。今後ともよろしくお願いいたします。

今後の行事予定

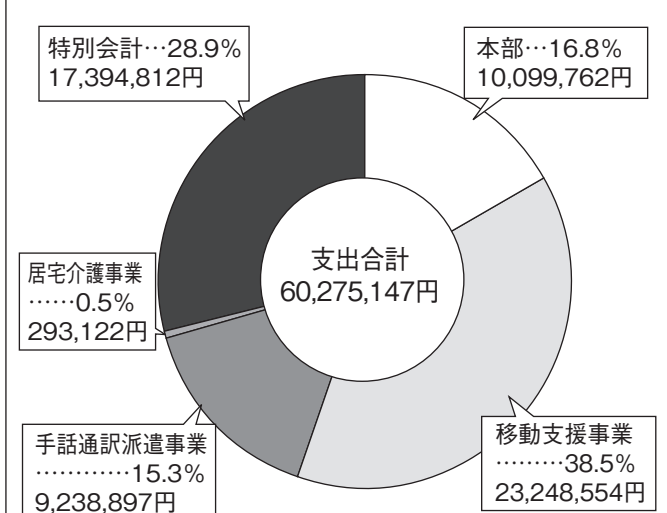
- 《8月》
28日(水) 栃木県福祉のつどい
- 《9月》
14日(土) うつのみや
ふれあい文化祭
- 29日(日) 栃木県障害者スポーツ大会
- 《10月》
5日(土) 宇障連野外訓練
12日(土)～14日(月) 全国障害者スポーツ大会
- 《11月》
1日(金)～2日(土) 栃木県障害者文化祭
23日(土) 宇都宮市民福祉の祭典
- 《12月》
3日(火) 栃木県身体障害者福祉のつどい
21日(土) 宇障連ハッピーフェスティバル
- ※上旬に地域交流事業を予定
- 《2月》
11日(火) 宇障連ボウリング大会
- 《3月》
8日(土) 理事会
15日(土) 評議員会

決 算 報 告

収入内訳



支出内訳



平成25年度 宇都宮市障害者福祉会連合会役員

役職	氏名	部会
会長	麦倉 仁巳	肢体
理事	中村 富頼	肢体
〃	半田 江美	聴覚
〃	稲川 和彦	聴覚
〃	小池上 惇	視覚
〃	田中 雄二	視覚
〃	田村 正男	河内
〃	山崎 富子	父母
〃	南 範子	父母
〃	猪瀬 友夫	喉友会
〃	小杉美津江	学識
常務理事	柏倉 宗男	事務局
監事	渡辺 昭治	肢体
〃	丸田シズ江	視覚
〃	数度 美幸	聴覚
〃	相原 節子	父母
〃	大塚 俊男	学識
評議員	山本 純一	肢体
〃	佐藤 紀夫	肢体
〃	山崎マサ子	肢体

役職	氏名	部会
評議員	原田アイ子	肢体
〃	古田土アサ子	肢体
〃	坂本 好夫	河内
〃	中村 作巳	河内
〃	田辺 静子	河内
〃	小山田由典	視覚
〃	小野 和良	視覚
〃	古川 ミチ	視覚
〃	岩井 恵	視覚
〃	新井 精孝	聴覚
〃	高梨 洋子	聴覚
〃	齋藤 幹治	聴覚
〃	渡邊けい子	聴覚
〃	大島 昭平	聴覚
〃	佐藤 進	父母
〃	太田 幸子	父母
〃	鈴木 民子	父母
〃	塩谷 和子	父母
〃	市瀬 俊子	父母
〃	高橋 勝巳	喉友会

役職	氏名	現役職等
評議員	金田 貞夫	宇都宮市自治会連合会会長
〃	鈴木 逸朗	宇都宮市民生委員児童委員協議会会長
〃	松本カネ子	宇都宮市ボランティア協会会長
〃	川俣智枝子	宇都宮手話通訳者連絡会会長
〃	岡地 和男	宇都宮市社会福祉協議会事務局長

特別職

役職	氏名	現役職等
顧問	市村 昌宏	宇都宮市社会福祉事務所長
相談役	川中子武保	宇都宮市保健福祉部長

苦情解決第三者委員

真田富美子	元県議会議員
小川榮一氏ご逝去の為、現在のところ後任者は未定	

【訃報】

本会、第三者委員をお願いしておりました、栃身連会長の小川榮一様が6月9日、ご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。